新・新潟市教育ビジョン策定推進本部　第４回本部会議　会議概要

【開催概要】

日　時　令和６年５月 23 日（木）午後３時 00 分から午後４時 30 分

会　場　ふるまち庁舎４階　401 会議室（教育会議室１）

出席者　本部長・副本部長・本部員　ほか

【会議概要】

■１　開会

本部長あいさつ（夏目教育長）

○　改めて教育というと、皆さんはどのようなことが頭に思い浮かぶか。近年、社会環境の変化の速さや振れ幅の大きさというものは増すばかりで、教育に関するさまざまなキーワードが山のようにあふれている

○　単に生物学的にいえば親子を最小単位として、親から子どもに教え、育てるというものだと思うが、人間として社会の知的資源を共有して効率を求めていくということになれば、自ずと基礎的、集合的なところになるのは公の教育である。

○　自治体としては、その現状や課題、方向性といったものを明確に市民の皆さんにお示しする必要がある。本市が社会のあり方を踏まえた教育を実施して、また、将来の変化も予測して対応できるようにするために、今から、受け身ではなく主体的に将来の社会のあるべき人間の姿をイメージして、それを多世代において共有し、市を挙げて実現を目指すという取組みが必要である。

○　その大きな方向づけとして、新しい教育ビジョンへ進むものだととらえている。新ビジョン策定にあたっては、従来の常識的な枠組みにとらわれることなく、世界の中の日本、新潟市の位置感覚を踏まえ、常に最新の教育事情にアンテナを張りつつ柔軟に対応できる新潟市の教育というものを築いていく必要がある。

○　昨年 11 月に第１回の会議を開催して以降、新ビジョンの基本構想、基本計画を検討してきた。第４回の今日は評価指標の検討協議も加わってくる。これからの本市を築く教育の未来に向けて市長部局、教育委員会事務局のすべての皆様からそれぞれの立場と役割、深い知見に基づいた忌憚のないご意見をいただきたい。

■２　説明・協議

（１）説明

○　これまでの経過報告と今後のスケジュール等について

資料に基づき、事務局から説明

（スポーツ推進課長）

総合教育会議での説明は来年２月の１回のみか。

（教育総務課長）

総合教育会議は、第１回目として来月６月４日を予定している。キックオフではないが、スタートというところで、広い視点で市長、教育委員から意見をいただき、それを踏まえながら、基本構想、基本計画を作っていく。年度末にも総合教育会議を開き、そこで最終的な確認をしていきたいと思っている。

○　基本構想・基本計画（素案）について

資料に基づき、事務局から説明

（中央図書館長）

昨年度、このビジョンには新潟市立図書館ビジョンと子どもの読書推進計画も入れてほしいというお願いをしており、子ども読書推進計画が法律に基づいたものになるので、４ページの２（１）に子どもの読書活動の推進に関する法律に基づいてというのを入れていただきたいと思う。

（スポーツ振興課長）

９ページから、社会経済情勢や現状ということで①から⑩がある中で、並べて見ていくと、⑦がいじめ、不登校ということで、他の項目が大きな括りで表現されている中で少し違和感を感じる。もう少し表現を変えるとバランスが取れると思う。

（学校支援課課長補佐）

23 ページの学びの「循環による人づくり」という記載について、28 ページにも「循環型生涯学習の推進に力を入れてきました」とある。おそらく 23 ページの記載は、このページのことを述べているのだろうと思っているが、個人的に循環型生涯学習というのはなかなかイメー

ジがつかないので、23 ページのところでもう少し循環によるという成果がアピールできるといいのではないかと思う。

（教育総務課長）

今、教育委員会内部の所属からも話があったように、教育委員会が作ってしまうと、どうしても市民目線での視点が足りなくなってしまうことがある。市長部局の課長からも、少し分かりづらい表現だったり、こうしたらいいのではないかということをご意見いただければと思う。

（国際課長）

先ほど、スポーツ振興課長の話にもあったが、私も少し気になったところである。教育を取り巻く環境、９ページの（１）社会経済情勢や現状とあるので、これを、社会経済情勢や教育を取り巻く現状とするといいのではないかと思った。その上で、例えば 13 ページ、14 ページのあたりは、教育のことだけではないので、それを前に出して、⑦と⑧を後ろに持っていくとよいのではないかと思う。

（教育相談センター所長）

31 ページの基本方針Ⅱの施策６「誰一人取り残さない、一人一人のニーズに対応した教育の推進」の２つ目の●のところについて、いじめや不登校等さまざまな課題にとあるが、これだけ不登校が多い現状を見みると、「いじめと不登校」を一緒にしないで、分けた方が意識も高まり、施策もより具体的になるのではないかと思う。

（特別支援教育課長）

今ほどあった 31 ページの基本施策６に関して、一人一人のニーズに対応した教育というと、現行ビジョンの第４期実施計画の中には、特別支援教育をイメージしやすい部分があるが、新しい教育ビジョンには、特別支援教育に関する記載がなく、基本方針Ⅳに特別支援教育の推進に書かれている部分があるだけである。「一人一人のニーズに対応した教育」となると、特別支援教育にかかわる部分が大きいと思うので、その辺はどのようにお考えなのか。特別支援教育として、基本方針ⅡとⅣどちらに重きを置いているのかお聞かせ願いたい。

（教育総務課長）

あくまで基本方針Ⅳは環境の整備とについて述べている。一方、基本方針Ⅱは、個の力を高

めるためにはどのようにしていくかという観点で述べている。当然、どちらも関連はしているが、分かりにくい部分はあるかもしれないので、改めてどのように記載していくか検討したい。

（こども政策課長）

30 ページから 33 ページにかけて基本方針Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳとタイトルがあって、その下に説明文が記載されている。これからブラッシュアップされていくということだが、素案では、基本方針Ⅰ、Ⅱ、Ⅲというのは「何々の時代、何々が大切です、そして何々につながります」という記載だが、基本方針Ⅳは、「何々していくためには何々が大切です、最後は、支援体制を整備します」というような記述になっているので、書きぶりとしては基本方針Ⅳのように、「こうしていきます」といった形にしたほうが良いのではと思った。

（スポーツ振興課長）

このビジョンの計画期間内のトピックスの一つとして、中学校の部活の地域移行があると思う。今の説明の中では特に触れられていないが、スポーツ振興課でいうと、スポーツ推進委員という方が全市で 250 名ほどいて、そういった方も非常に関心を持っていらっしゃる。保護者の方も不安に思っている方もいらっしゃると思うので、何かしら触れたほうが良いのではと思う。

（学校支援課課長補佐）

30 ページの基本方針Ⅰの下に「ウェルビーイングの実現について」とあるが、これは実現ではなくて向上なのではないかと思う。「ウェルビーイングの向上」はかなり上位概念で、９ページの「教育を取り巻く状況」のところにも出てきている。そのため、新潟市としてウェルビーイングの向上を目指していくということであれば、28 ページくらいのところに盛り込むといいのではないかと思う。

続けて、基本施策２のところで、１つ目の●、２行目の、「個別最適な学びと協働的な学びは一体的に充実することで、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげます」の部分について、この内容は学校教育では非常に大事にしたい内容なのだが、２つ目の●が親和性が高いと思うので、そちらの一緒にするような形がいいのかなと思った。また、発達段階において」うんぬんというところは、次の基本施策３のキャリア教育の推進の内容に指標が重なるように感じる。そのため、そこの部分は施策３とした方がよいのではないかと思う。

次に 31 ページについて、先ほど教育相談センター所長からも話がったが、課題上、いじめと不登校はセットで扱うことが多いが、性質は異なるので、基本施策と合わないことが多くな

っていくと思う。施策６に関しては不登校でいいと思うが、施策５にはいじめの内容が入ってくるといいのかなと思う。そうすると、基本施策８の２つ目の●に関しては削除してもいいのではないかという意見もある。

続いて、施策８に「命の教育」と書かれているが、一般的にはＳＯＳ、あるいは自殺予防のことを指すので、１つ目の●が内容にそぐわないように感じる。

全体をとおして、2040 年の課題ということも踏まえると、ＩＣＴとかＡＩとかデジタルの力を伸ばしていくというところをどこに入れるかということについて、今、基本方針Ⅳに盛り込んでいるが、基本施策７に子どもたちの資質、能力あるいは市民の資質、能力を育むということで入れたらどうかと思っている。

基本施策９が非常に浮いている感じがする。基本施策９だけ連携、協働することが目的になっている。これは、手段や方法なのではないかと考えていて、基本方針Ⅳに入り込むのではないかと感じている。また、基本施策９の●の１つ目、２つ目、３つ目は同じようなことを述べている。これらに対し、事業を考えるとき、学校はあれもこれも取り組まなければならないということが危惧される。基本施策９の一番最後の●について、「地域課題の解決を支援する」と書いてあるが、主語が分からない。

次に 33 ページについて、どうしても環境の整備がほかの基本方針と同列であるということに違和感、あるいは事業を考えるときに弊害になってくるのではないかと考えている。基本方針Ⅳは、整備・充実なので、手段になっていて、本来目指すべき指標や目的が見えにくくなるように感じている。代案としては、ほかの３つの基本方針と区別化を図る。例えば見出しのところに「基本方針ⅠからⅢを実現するために」といった前置きを置くとか、あるいはほかの施策に関連するものを明示しておくとか、例えば、事業レベルでＩＣＴの整備をするという事業が一つあったとして、これは施策の何番の何にかかわっているといった形で関連性を持たせて明記をしてもいいのではないかと思う。基本施策 13 について、教育総務課長も話していたが、学校教育のことが全部になっているが、教育のＤＸ、ＩＣＴは学校だけではないのではないかと思っている。新潟市教育の情報化ビジョンがあるので、それについて基本施策 13 で述べると、地域、家庭、保護者を巻き込んだ情報化について施策が打てるのではないかと思う。

（総合教育センター所長）

総合教育センターは教育研修機関なので、33 ページについて感想を述べさせていただきたい。基本方針Ⅳの説明のところで、「一人一人の専門性を高める」という記載について、「専門性」という言葉を入れてもらいありがたいと思っている。基本施策 14 の中に、「資質・能力の向上と」と記載があるが、できればこちらも教職員、教員の資質・能力というよりは専門性と

いう言葉を入れてほしい。中央教育審議会や文部科学省で一律に資質・能力を引っ張り上げるというよりは、一人一人の強み、弱みを生かして、専門性を伸ばして、専門性を持った人たちが集まり、チームで対応して、教育力を伸ばしていくいう方向なので、整合性がとれるといいと思った。

もう１点、前回の策定推進本部の中で、基本施策 14 に、「資質の向上と働き方改革」について述べられており、これに違和感があったので、働き方改革を外せないかという話を出させていただいた。今回の案を見ると、働き方改革に関する記載がなくなってしまった。資質の向上ということとは別に、先生方にしっかりと力を出してもらうためには働き方改革といった支援体制が重要だと思うので、●を一つ増やすなどして記載があった方がよい。

（教育総務課長）

働き方改革についての記載が足りていない部分があると思うので、そこは少し検討したい。最初の表現についても後ほど確認したい。

（保健給食課長）

30 ページの一番下に食育の記載がある。食育は栄養食習慣のほかに地域の食文化という観点からも考えられるので、32 ページの基本施策 10 の２番目の●の「文化」の中にも、新潟ならではの「食」があるということを文字として入れるか、入れなくても、文化の中に食というものがあるのだということの共通理解だけ図っていただければと思う。

（生涯学習センター所長）

新潟市としては総合計画というのが最上位にある。総合計画の中で、新潟市民がこういうふうになっていきたい、こういう新潟市をつくっていきたいというのがあり、教育の分野としてはどういうアプローチをするのかというのがこのビジョンだと捉えている。具体的なところに入っていく前に、それぞれ市長部局なり市民だったり民間が作った素地の上で教育はどうアプローチをするのかという見方をするほうがよい。それが、総合計画の下にある計画、ビジョンが行うものであると考えている。先ほど課長が話した通り、市長部局の施策やほかの施策がここに関連づけて書かれていかないと、なぜそういった教育的なアプローチをするのかというのが見えてこないので、その辺りは明確にしたほうがいいのかなと思う。

（文化政策課長）

基本施策 10 のところの一つ目の●について、「優れた音楽や芸術等に触れる機会の提供な

どを通して」という記載があるが、この文脈については、どちらかというと、「豊かな心を育む」というころのほうにかなり寄っているのかなという印象がある。教育振興基本計画でも、目標２の「豊かな心の育成」の中に、文化芸術は豊かな人間性を育んで創造力と感性を育むというような文言がある。これから検討されるかと思うが、そういった印象を持ったので、意見として申し上げる。

（食と花の推進課長）

先ほどから話題の基本施策 10 に関連して、市長部局と教育委員会の連携となると、私どもの分野でいうと、アグリ・スタディ・プログラムがまさに田園型政令市のシビックプライドの醸成ということで一緒に取り組んでいる事業だと思っている。おそらく基本施策 10 に位置づけられると考えているが、１つ目の●が、音楽、芸術、文化、２つ目の●が、公民館などの地域学習ということになっており、農業の部分というのがここに位置づけられにくいのではないかと感じている。もし、今ある２つの●の中にもう一つ文言を加えていただき、アグリ・スタディ・プログラムについての記載についてご検討いただけるとありがたい。

（教育総務課長）

表現をどうするか、項目を増やすかを含め、検討したい。

時間も限られているので、何かあれば後ほどご意見を頂ければと思う。基本方針をⅠからⅣまでまとめているが、新しい教育ビジョンが、どこを強めていくのというのを、もう少しいい形で表現できればいいと考えている。

次に施策指標について、スライドをご覧いただきたい。現行の教育ビジョンでは、各施策にぶら下がる事業に指標を設定し、事業ごとに評価を行っている。これについては、施策レベルの成果や課題、振り返りがしづらいという課題がある。そこで、新しい新潟市教育ビジョンでは、１から 14 までの基本施策に対して指標を設定していきたいと考えている。これにより、事業レベルでの指標のＰＤＣＡを行うのではなく、基本施策に指標を設けることで、これまでよりも俯瞰した視点での施策の振り返り、基本施策の成果と課題を見ることができるのではないかと考えている。総合計画 2030 の政策指標と取組指標については踏襲し、事業については総合計画 2030 の取組指標を踏まえて重点的な事業については事業レベルで指標を設定し、事業全てに指標は設定しないという方向で考えていきたい。他都市においても基本方針や基本施策のレベルで指標を設定している。これについて何かご意見があれば、後ほどいただきたいと思う。

それでは、施策指標等について説明させていただきたい。お配りした資料は、あくまで案と

して用意をしたもので、皆様からも、これがいいのではないか、こういう視点がいいのではないかというご意見をいただければと思っている。今日が初見かと思うので、後日でも構わないのでご意見をいただければと思う。

全体の構成について、各基本施策１から 14 まである中で、おおむね各基本施策ごとに２つから３つくらいの指標を置いている。中でも黄色のマーカーが塗ってあるところは、総合計画の政策指標や市長公約で関連する事業に係る指標で、それ以外の黒字の部分については、基本的には総合計画 2030 の取組指標から選択をしている。また、赤字の部分については関連指標として、ビジョンを評価する上での直接的な指標にはならないが、教育委員会が関わっている指標では足りないと思われる部分について、例えば市長部局で今設定している取組指標から、こういった指標もあると全体的な評価がしやすいのではないかということで設けたものである。後ほどご覧になっていただき、ご意見いただければと思う。全体で 30 くらいの数を想定している。先ほど申し上げたように、現行の教育ビジョンでは 120 くらいの指標があり、ビジョン全体の評価となると数が多すぎるということもあるので、このように設定させてもらいたい。今説明したのは、基本構想、基本計画を評価するうえで指標となっている。実施計画を策定するにあたっては必要な部分において、事業レベルかもしれないが、指標を設定していく場合もあると思う。ここにあるのが全ての指標ではないので、ご承知おきいただければと思う。何かあれば、後でも構わないので、質問、意見をいただければと思う。

■３　連絡・その他

○　実施計画及び予算編成について

（教育総務課長）

実施計画については、後ほど事務局から作業に係る連絡をさせていただきたいと思うので、各課においてはご承知おきいただきたい。

予算編成については、教育ビジョンを令和７年度から新しく展開していくにあたって、具体的に取り組む事業の部分を打ち出していければと思っている。このビジョンを達成していくためにどういった取組や事業が必要なのかというものを意識していただき、積極的に新しい取組みを検討していただき、事業化できればと思っいる。

○　パブリックコメントの実施について

６月議会で基本構想・基本計画について報告させていただき、その後、パブリックコメントを実施したいと思っている。実施期間としては７月４日からを予定しているが、これからの作業にもよって、期間の変更があるかもしれない。承知おきいただければと思う。

○　新・新潟市教育ビジョン策定に関する有識者会議の開催について

有識者会議を７月から月１回、計４回実施していきたいと思っている。委員については、こちらに記載されている方々を予定している。記載の方々からは概ね了解をいただいているところで、これから具体的な日程等調整していきたい。本部員の皆様につきましては、有識者会議にも同席いただければと思っている。

（山本教育次長）

○　平成 18 年度に現在の教育ビジョンの基本構想、基本計画を策定し、これまで実施計画でつないできたものなので、新しい基本構想、基本計画を作るというのはすごく大変だなと、私も今年度から初めて携わらせてもらって、この会議に出席して感じたところである。

○　教育委員会事務局はもとより市長部局の皆様からも積極的なご意見をいただいて、未来に向けてよい新・教育ビジョンを作っていただくことが大事だと思っている。

○　今日いただいた基本構想、基本計画に対するご意見はさらにブラッシュアップしながら、実施計画を同時並行で作っていく必要がある。タイトなスケジュールだが、市長部局の皆様との密接な連携がさらに必要になってくると思う。

○　実施計画はいったんプロジェクトチームの皆様から検討していただくような流れになっているようなので、改めて各所属の皆様からご協力をお願いして、私のあいさつとさせていただきたい。